

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
経営学部スポーツマネジメント学科	石川 智	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

◆前期

基礎ゼミナール 1n

基礎ゼミナール 1s

フィールドワーク A

プレインターンシップ

経営学総論 A

スポーツと地域社会

スポーツマネジメント演習 B

研究ゼミナール 1

研究ゼミナール 3

研究ゼミナール 5

◆後期

基礎ゼミナール 2n

基礎ゼミナール 2s

インターンシップ

スポーツ科学実技 C

スポーツ政策論

スポーツ施設管理論

スポーツマネジメント演習 C

研究ゼミナール 2

研究ゼミナール 4

研究ゼミナール 6

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

様々な教育活動を通じて、学生の主体的に「考える力」を養い、課題解決能力を高めることを目指す。刻一刻と変化する社会の中で、そのような状況に対応できる人材を育てることは、大学としての重要な役割である。本学の建学の精神である「作新民」の精神とともに、「自学・自習」、「自主・自律」の教育理念に基づき教育活動を実践する。特に経営学部にあっては、卒業後に会社員や公務員などとして活躍できるよう、経営実践に触れる機会をより多く創出し「生きた学び」を提供する。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

講義科目については、学生への一方的な教授ではなく、授業の理解を深めるような発問を織り交ぜつつ、学

生が「考える」授業を重視している。そのために、できる限り最新の情報を提供し、時には視覚教材を活用しながら、授業を展開している。終了後には、リアクションペーパーに簡単な課題と授業の感想を記入させ、その内容を次の授業冒頭に一部講評するなど、学生との双方向的なコミュニケーションを図るよう意識している。

一方、演習科目については、地域で開催されるスポーツイベントの運営ボランティアやプロスポーツクラブにおける観戦者調査などを授業内容の一部に取り入れ、より実践的な学びが得られるよう工夫している。また、学生にスポーツイベントの内容を企画させ、実際の運営に至るまで、身をもって体験できる機会を授業の一環として提供している。これら一連の過程においてはグループワークを多く用いて、学生個人の主体性を引き出すとともに、学生同士の協力関係を築き、相互に成長し合える環境づくりに努めている。さらには、県内のプロスポーツクラブや民間スポーツ施設などにおけるインターンシップ（5日間程度）を授業として提供している。

その他、ゼミナール科目については、4年次の卒業論文の作成に向けて、研究発表とグループでのディスカッションを繰り返し行っている。それにより、物事を客観的に捉え、自らの思考を論理的に説明できる能力を身に付けることを目指している。

【成果】（その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど）

上記の方法により授業を実践することで、学生の授業への意欲や集中力が増し、授業終了後に提出するリアクションペーパーも具体的なコメントが多くなり、質の向上が見られる。それらに加えて、学外での授業体験を重ねることで新たな学びや気づきを得られるだけでなく、学生の「考える力」が高まり、他の科目においても授業内容の理解が深まっているように感じ取れる。このように、他の科目と連動することで学生の学びを深めるといった相乗効果が得られている。特にゼミナールにおいては、研究の問題意識がより明確になるとともに、学生間のディスカッションが活発になっている。なお就職に関しても、卒業生の中にはインターンシップを通じて実際にプロスポーツクラブのスタッフとして就職した者も現れている。

【目標】（今後どうするか）

今後も学生に「生きた学び」の機会を提供するために、地域や関係団体と連携しながら、学外での授業内容（ボランティア活動やイベント企画・運営など）を拡充させたい。特に近年はコロナ禍の影響により、インターンシップに参加する学生が少なかったため、プロスポーツクラブなどでの受入件数を増やしたい。